

NPO法人社会還元センターグループわ会報

情報ギャラリー

第29号

情報ギャラリー第29号

発行日 2005年1月28日
 編集 グループわ 広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループわ
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール group_wa@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

2005年の年頭に当って

理事長 赤司 松美

グループわ及び会員の皆様の更なる飛躍と健康を祈念し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素はグループわの活動、運営にご理解とご協力を賜り、役員を代表し厚く感謝申し上げます。

お陰様でNPO法人としての自覚と責任ある会員の皆様の活動により内外の信頼と期待が高まっております。その期待に応え、更に充実した活動を会員の皆様と共に目指してまいりたいと決意を新たにしているところであります。

年頭に当たり17年度に向けて下記、当面処置すべき課題と対応方針について触れ、そのご理解とご協力をお願い申し上げます。



1. 新会員の入会案内と募集、受付の内容及び体制の確立

事務局を中心に立案し企画委員会、運営委員会の審議及び協力を得てより効果的にタイミング良く、新規会員の入会獲得を目指し努力します。

2. 来期役員人事の選考と早期役員候補者の擁立

本部役員退任者補充を含め人選し2月初めより交渉し3月末までに本部役員(理事、監事)内定を目標とします。部会、地区会役員についても3月末内定目標で擁立を図り、名実ともに実行力があり、希望のもてる人選を幅広く求め確立したい所存であります。会員の皆様の推薦をお待ちしております。

3. こうべ環境未来館の継続受託体制の早期確立

昨年6月受託開始以来今日までの管理運営業務については、行政及び市民の評価も高く、これは一重に委託業務関係者の責任感と努力の賜物と感謝しております。

17年度も継続受託を目指し、更に充実した業務内容とレベルアップを目指し、新規希望者を含めて3月中旬を目途に受託体制を確立し、継続受託に全力をあげて取り組む事と致します。又16年度業務報告書の作成に関係者の協力をお願いします。

4. 来年度助成金申請の推進

助成金は大事な収入源であり活動を活性化してくれます。16年度は本部として4件、総額にして会費を上回る約2百万円の助成金を取得できました。

3月までに来年度の申請が集中します。情報入手及び助成金申請期限に留意し16年度を上回る取得額を目指して申請書提出に努力します。

5. 16年度助成金受託事業の完遂と報告書の提出

取得した助成金事業を申請内容に従い完遂し、決められた書式により正しく記載し報告することは、今後の助成金取得に大きく影響します。3

月までに予定している行事完遂について関係者の協力をお願い致します。又報告書は2月中より準備に入り行事終了の3月半ばより集中的に行い4月中の期限までに提出致します。

6. 会員相互扶助システムの検討と発足

昨年の総会議決により本件検討のための検討委員会を設置し目下検討中であります。前回の情報誌による会員のアンケートの結果を反映したシステムの構築を目指して鋭意検討を加え運営委員会で審議後、来る総会の行動方針の中で審議を頂き、議決後発足できるよう努力する予定であります。

7. 事務所賃貸契約及び運営委員会の承認推進

法人格取得により法人としての履行事項を整理し問題なきよう処置しております。

残るのは神戸市と活動拠点である現事務所の法的な賃貸契約であります。

カレッジ事務局を通じ神戸

市と交渉を開始したところですが、グループわの設立経緯及び活動内容、カレッジとの関係については市当局も理解しており、契約に際して何らかの配慮ができないか検討中と聞き及んでいます。

これからも今までの経緯を考慮した賃貸契約ができるよう関係先にお願ひし、内外共に認められた活動拠点をしっかりと確保する交渉を推進し、運営委員会の承認を得て後顧の憂い無きよう正式契約を行いたい所存です。会員皆様の御理解を特にお願ひ申し上げます。

8. 総会の準備推進

次期役員人事・予算・活動方針など企画委員会と運営委員会で十分審議した上で充実した内容のある議案を早めに提案し、できるだけ事前に検討可能な状態での総会にいたく早期準備に取りかかります。

活動方針策定についてはマンネリになりがちな活動を生き生きした発展的な活動となるよう新役員候補者も入れて幅広く可能性を求めて部会、地区会とも活発に議論し策定できればと願っています。

会員の皆様1人1人が生きがいと喜びをもって社会還元に寄与される事を願ひし、山積する課題を関係者の協力を得て微力ながら誠意を持って遂行し内外の期待に添えるよう努力する所存です。どうぞ本年も御理解と御協力、叱咤激励をお願ひ申し上げます。

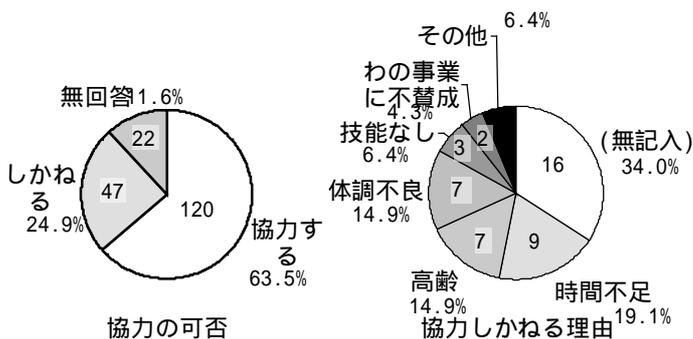
会員相互扶助事業に関するアンケートについて

先に「会員相互扶助事業」の実施に向けて検討の参考とさせて頂くため情報ぎやらりーにアンケートを同封して、ご回答をお願いしたところ、200通近いご回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。

概括的な集約結果は以下の通りです。

まずこのような事業をはじめた場合、協力して頂けるかについては、下左図に示すように189通の回答中120人(63.5%)の方が協力するとの回答でした。一方協力できないという回答が47通あり、その内訳を下右図に示します。

相互扶助の報酬に対して伺った結果には163の回答がありましたが、無料は3通のみでした。報酬額は500円が97通(5



9.5%)、ついで1000円が32通(19.6%)で、この2つでほぼ80%を占めました。交通費をプラスする回答もありましたが、18通(11%)にとどまりました。

支援内容には182名の方から回答がありました。15位までの内容と回答数を下の表に示します。複数回答があったため総数は回答者数を上回っています。

以上から最大公約数的にはご賛同の意思が伺えました。問題点を十分検討し、新年度に向け事業案を策定することにします。

順	支援内容	回
1	買物代行、買物介助	82
2	庭の掃除、手入れ、除草、旅行時の水遣り	79
3	病院等への付添い、介助、投薬受領	66
4	炊事、洗濯、掃除	65
5	散歩、外出介助	59
6	話し相手	54
7	簡単な便利大工	44
8	家具の置換え、部屋の模様替え	37
9	手続き代行	32
10	学習相談(パソコン、絵など)	32
11	観劇やスポーツ観戦介助	22
12	悩み相談、よろず相談	19
13	生活情報の探索、取得、提供	18
14	布団などの虫干し、乾燥	15
15	支払い代行	13

「うたごえ大祭典」協賛金ご協力のお礼

「うたごえ大祭典」がシルバーカレッジのキャンパスを舞台に、在学生に加え、カレッジOB、地域の人たちの参加も得て昨年12月1日催されました。これは、阪神大震災10年を迎え、神戸からの発信ということで、「してきたコト」を総括し「これからするコト」を表明しようと企画されている色々なイベントの一環として、シルバーカレッジからも発信しようと、在学生が主体的、自主的に企画実施したものです。当日千名余がカレッジに参集、プログラムが展開される中カレッジのモットー、他のために...の更なる発揚を確認しました。

「うたごえ大祭典」実施に際しては、同実行委員会からの協賛金協力依頼を会員の皆様にお伝えし、お願いしましたが、わ 会員の協賛金は、118名の方から目的額10万円を大幅に超える14万8千6百円の協賛振込みを頂きました。ありがとうございました。なお、ご協賛頂いた方々へは実行委員会からとして、KSCの1期生の震災体験文集記録のCDとうたごえ大祭典記念文集の冊子を わ 事務局からお送りしました。ただ振込み依頼者の氏名しか分からない形の振込み様式であったため、事務局の名簿の住所から変わった方には記念品が渡し漏れになっている恐れがあります。お心当たりの方は わ 事務局までご連絡ください。

基金ご協力のお礼

神戸市シルバーカレッジに、太陽光発電所を設置するにあたり、「基金」を募りましたところ、グループの会員様をはじめ、卒業生、在校生、事務局職員・諸先生、その他関係先の皆さまのご協力で、806名の個人と4団体から、当初目標75万円(基金充当分)を上回る総額101万5000円の基金をいただきました。厚く御礼申し上げます。

設置は11月中旬に、その付帯設備工事が順調に施工され、12月17日に関係者による設備の立会い検査と検収を行い工事は完了しました。

余剰金を皆様に親しまれる別の太陽光発電関連設備の追加、検討をするまでにいたっております。

なお、竣工および基金の報告とお礼を兼ね、1月25日(火)に各グループの代表者にご出席をいただき「報告会」を開催し、その後学校へ当該設備管理を引渡し、発起人一同の任務を終了いたします。

太陽光発電所設置と基金募集発起人会一同

代表 松井 勝明

賛助会員申込第1号

フルーツ・フラワーパークより賛助会員入会申込がありました。同パークとは一昨年のスローライフ週間、昨年のニュースポーツ、作品展示会、昔あそび等様々な行事に関わっており、会員の皆様もよくご存じと思います。今後も今まで同様に色々な面で協力して行きたいと思っておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

不要パソコンの提供 お願い

私達は、KSC在学中グループ学習のテーマにパソコンのリユースを選び、取り組みました。卒業後はNPO法人社会還元センターグループわ環境部会の小グループとして取り組みを継続しています。提供頂いたパソコンを再整備し福祉団体等で有効活用して貰います。皆さんご本人の提供以外に、提供に関する情報等についても歓迎します。またこのグループに参加し一緒に活動される方も大歓迎です。ご連絡をお待ちしています。連絡先は下記：
室野 允良 078-951-2060
murono_n@iris.eonet.ne.jp
小林 将悟 078-961-0722
sg_koba@ares.eonet.ne.jp



平成17年度会費納入のお願い

H17年度会費納入の郵便振替「払込取扱票」を同封しています。3月25日(金)までに納入をお願い致します。

託児ボランティア なり手いませんか？

依頼元：ほっとハット子育てサークル

活動場所：HAT神戸地域福祉センター(中央区脇浜海岸通3-2-7)

活動日時：毎週月曜日
10時~12時

活動内容：お母さんが講座を受けている間、0歳から4歳ぐらいの子供を見ていただきたい。

ボランティアできそうな人はグループ事務局にご連絡ください。

同封してます

平成17年度神戸市シルバーカレッジ入学案内 同封しましたのでお知り合いの方におすすめて下さい。

* * *

中国ツアー案内
桂林・昆明・石林5泊6日のツアー



グループわ行事計画 2005年2月~4月

外国人のための日本料理教室

日時：05年2月5日(土)10時~15時

場所：クリスタルビル4F

対象者：日本在住外国人

外国人学校での昔あそび塾

05年2月7日(月) マリスト国際学校

05年2月22日(火) カナディアンアカデミー
ミースクール

炭焼き体験

日時：05年3月12日(土)

10時~12時

場所：シルバーカレッジ中庭

対象者：小学生と保護者、児童館、エコクラブ

昔あそび塾

日時：05年3月12日(土)

13時~15時30分

場所：しあわせの村研修館ホール

参加自由

パソコン講座 パソコン入門

日時：05年3月28日(月)~4月1日(金)

9時30分~12時30分

場所：シルバーカレッジ

受講料：7000円(教材費含む)

パソコン講座 デジカメ画像処理

日時：05年4月4日(月)~4月8日(金)

9時30分~12時30分

場所：シルバーカレッジ

受講料：7000円(教材費含む)

中高年男性ふれあい調理実習

3月22日(火)、同29日(火)、4月5日(火)



H17年度 グループわ定期総会

日時：5月17日(火)

場所：シルバーカレッジホール

以上のように日程が決まりました。

ぜひ予定表にお書き加えてください。

そして、ご出席くださいますようお願いいたします。
なお、議案書、出欠ハガキ等は4月下旬に送ります。

福祉部会

振り返って

福祉部会長 芦原 耐子

福祉部は6日(雨のため中止)7日の真愛ホームの湊川神社初詣のボランティアで新しい年が始まりました。

福祉部長を受けて2年が経った今、皆様のご協力なくしては福祉部の活動は成り立たないとつくづく思います。

定例活動では真愛ホームの週2回の入浴後の整容、行事の時の介助、滝谷ホームの宿泊ボランティア、たまも園のプール遊び、山歩き、食事作りボランティア、クッキーの会の手作りクッキー持参し施設への友愛訪問などがありました。

臨時活動は垂水養護学校のしあわせ村でのキャンプの介助、こうべ子供の未来の応援バザーの出品物の値段付け1週間、販売2日間という沢山の方々の協力をいただくボランティアもありました。

また視覚障害者とのダンスパーティーのパートナーのボランティアでは社交ダンス部OB会の方々の協力を得ました。神戸新聞に活動の様子の写真が載りました。

12月中旬クッキーの会の人は20数名のみくら作業所の子供達とクリスマスケーキ作りをしました。小さいながらも1個のケーキを焼き、デコレーションをし、箱に入れお土産に持って帰りました。「おかあさんに!」と言った子供の顔と、輪になりクリスマスソングを歌い子供達が一人ひとりアリガトウ!の握手をした時は福祉部の仕事のやりがいとその中に身を置く自分にアリガトウ!でした。

どうかことしも福祉部に協力と関心をお寄せ下さいませようをお願い申し上げます。

国際部会

英語点字グループ 紹介とお願い

国8国 吉田 貞由
英語点字グループは5期生(国際交流・協力コース)が選択科目の英語点字を学び建学精神である“社会への還元”を目的に「目の不自由な人達のお役に立ちたい」との思いで設立したグループです。

会員は、OB会員:19名 在学生会員:26名です。

活動は合同で行っており、毎月1回例会を開いて、連絡事項、情報交換、KSC講師・竹田先生の指導のもとで点字技術の(点訳、校正、印刷、製本、発送等)勉強会を行っています。

点字本の実績は、完成:「日本昔話」(11巻)、「銀河鉄道の夜」(5巻)、「窓際のトットちゃん」(8巻)、「金田一少年の事件簿Ⅰ」(5巻)、「同」(6巻)。

点訳中:「旅行ガイドブック(日常会話集)」、「宝塚の民話」、「千と千尋の神隠し」、「芥川竜之介(短編集)」、「坊ちゃん」。

「気まぐれロボット」
準備中:「五体不満足」
などです。

寄贈先は

(1)上の完成本全5部を贈った先として

「ネパール視覚障害者を支援する会」
「ブータン・カリン盲学校」

(2)送付継続中の先として

「パリ点字図書館」
「ネパール点字図書館」
「ミャンマー盲学校」
「バングラディッシュ点字図書館」

(3)日本昔話4巻のみを送った先として

環境部会

親子で集まれ自然遊び塾 里山で遊ぼう

生6環 松本 義彦
2004年11月6日(土)のイベント当日、例年なら美しく紅葉しているはずの木々が台風の影響を受けてシルバーカレッジ里山の樹木が一部新芽を出し大変珍しい光景を見ることができた。

ことは例年より参加者は少なかったがそれでも総勢27名(大人14名、子供13名)が好天の中、里山で一日を楽しく過ごした。今回は外国人親子を招いての企画で、中国人親子お

よび祖母を含めた4人も参加され大変賑やかだった。

午前10時から始まったイベントは里山のお話や注意事項など確認した後、オリエンテーションを終了し、参加者全員約1時間30分、里山の中を散策し、樹木や草花、それに野鳥の観察など、それぞれのリーダーから説明があり、参加者の皆さんは大変興味を持って耳を傾けておられた。時には目を閉じて里山の静寂なども体験。普段体験できないことなどができて大変喜んでおられた。

昼食はそれぞれ持参したお弁当を気に入った場所を選んで
次ページに続く



電熱ペンを使ってマイ名札作り

「スイス点字図書館」
(4)準備中の先として

「中国天津市視覚障害者日語培訓学校」
があります。その他世界の点字図書館と交渉を継続し、目の不自由な方にも日本の素晴らしい昔話や文学を読んで頂けるよう励んでいます。

点訳活動は会員をグループに分けて、点訳本を選択し、分担を決め、各自自宅で点訳し(PCとFD使用)校正をし(最低2人)、持ち寄って編集しFD1枚に纏め、竹田先生の校正後、点字プリンターで印刷し、製本し、梱包・発送する、というものです。

ところで今回ネパールで視覚障害者を支援している日本人から下記文具の寄贈の依頼がありました。使用されていない中古の物をお持ちの方は地区会、部会を通じて、あるいは直接 社の事務所に2月15日までに送って頂きたく宜しくお願い致します。

読書用小型レンズ
分度器
ものさし
使用済カセットテープ
録音機能付きウォークマン
点字グループ所属の方で
不要になった点字盤
をお持ちの方
以上宜しくお願い致します

ケナフ紙すきで クリスマスカード作り

生4環 西田 金重

平成16年12月18日(土)こうべ環境未来館でグルーブ本部主催、環境部会ケナフの会協力でケナフによるクリスマスカード作りを行った。

本イベントは2年前から「親子で集まれケナフ紙すき塾」として実施して来たものと同じであるが、今年はケナフを通じて地球温暖化防止を一層啓蒙するため、会場を環境未来館にし、対象が親子であるので、まず紙芝居により地球温暖化、ケナフの働き等をわかり易く話し、次いでケナフによる紙すき、クリスマスカード作りを次のように進めた：

10:20~10:40:紙芝居

10:40~12:15:紙すき

12:15~13:15:昼休み(希望者は未来館、ピオトプの見学)

13:15~14:25:クリスマスカードの作成

14:25~14:40:ふりかえり

14:40~15:00:掃除

道具や会場の制約上60名定員としていたが、当日欠席もあり、ほぼ満員に近い56名・16家族の出席があった。この中、約80%の方は環境未来館は初めての方達であった。主催側は中島実行委員長、赤司代表、わ本部スタッフ、環境部会ケナフの会、在校生ケナフの会のメンバ-約30名が出席し、種々の準備、指導を行った。行事進行は中島実行委員長によって行われた。

以下実施状況を述べる。

紙芝居は初める前に質問すると、地球温暖化が炭酸ガスの増加によって起る等を知っている子供は約20%、ケナフを知っているのはもっと少なく、約5%位であった。このようなことを踏えてケナフの会が創作した紙芝居により紙芝居のベテランが、「地球温暖化はどうして起るのか、温暖化が進むと海水の上昇等どんな困ることが起るのか、ケナフは地球温暖化防止にどのように役立つのか、ケナフはどうやって栽培するの



か、地球温暖化防止のため、皆はケナフ以外に日常生活でどんなことをしたらよいのか」等を子供が退屈しないように質問しながら紙芝居を進める対話的で約20分間説明した。

子供達は幼稚園の子供もいたが、熱心に話を聞いた。午後に行ったふりかえりシートや、ふりかえって見ようの発表で多くの子供達より「ケナフを作りたい、温暖化防止のため電気、水を節約したい、車に乗らず歩くようにしたい」等の感想が述べられ、我々が期待した成果があったと思う。

クリスマスカードの作成は6テーブル(各テーブル約10名)に分かれて、1人2枚のケナフ葉書の紙すきを午前中行った。子供達およびお母さん、お父さんも殆どが紙すきは初めてで、童心に帰って紙すきをした。時間節約のため、紙すきで作られた濡れた葉書を昼休みに我々スタッフがアイロンで乾燥させた。

午後から子供達は乾燥したケナフ葉書に12色ボールペンでそれぞれが好きな絵を描き、子供全員がクリスマスカードを作り上げた。親子にとって思い出に残るクリスマスカードが作れたと思う。

作品発表とふりかえりは中島氏の司会で、作ったクリスマスカードの作品発表とテーブルごと

に子供1人、親1人の感想発表を行った。主な感想は次のようである。

親子で4時間余の長い時間、楽しく地球温暖化の勉強と初めての紙すきを体験することができた。感謝します。

地球温暖化とケナフについて、色々知ることができた。来年はケナフを育てて見たい。エネルギー(電気、水)を節約したい。

作ったケナフクリスマスカードは思い出に大事にしたい等。

今回は「ケナフから学ぶ地球温暖化」をテーマに、場所も環境未来館を選び、紙芝居による地球温暖化の話、ケナフによるクリスマスカード作りの体験をして貰った。親子共々紙すきの楽しさを体験すると共に地球温暖化とケナフをある程度理解して貰ったと思う。本イベントに参加されたのは紙すきの道具、会場の制約などから60名足らずの少人数であったが、参加の方々の地球温暖化活動がきっかけとなり、活動の輪が広がることを期待したい。

また、我々にとっては親子3代の楽しい交流ができた喜びと共に地球温暖化防止に役立てたと言う満足感が残った。

イベントに協力して頂いた環境未来館の皆様へ感謝申し上げます。

前ページから続く

家族ごとに楽しみ、子供たちは近くの土手で坂すべりを楽しんだりして午前の部が終了。

午後1時から里山に隣接した広場でリース作り、木工おもちゃ作り、名札づくりなど各グループにわかれ大盛況。いずれのグループも大変人気があって参加者特に子供たち以上にお父さん、お母さん方が熱心に取り組んでいた。今回は木工グループから4人の応援を得て里山で間伐した小枝などを利用したおもちゃづくりを実演指導、またリース作りでは里山のメンバーが事前に集めた葛の蔓や木の実など20種類を越える豊富な材料が準備されて、中国人家族などはリースづくりに強い関心を

寄せ指導を受けながら製作に熱中。予定時間を大幅に越えて楽しんでおられた。

さらにイベントを盛り上げるためにマテバシイの実の試食会や珍しい昆虫の標本の展示などもあわせて実施。お土産には竹とんぼが全員に配られた。

本部スタッフ6名を含む総勢27名のスタッフの活躍で事故もなく楽しい一日が終了した。

参加者の書いた振り返りシートには「こないし里山が身近にあるとは知らなかった」とか、「いろいろな草花を知ることができて大変勉強になった」、また「次も参加したい」、など反響も大きくスタッフの事前の努力が報われた気持ちで一杯だった。

文化部会

文化部から寄せられた同部内グループの実態調査は全部で7ページにもわたるため今回は最初の2ページを無編集で紹介します。残りは次号に掲載予定です。(広報部)

文化部会の実態紹介

文化部会長 芝野 公男

1. 登録グループ

文化部会には、現在24のグループが登録されており、419名(重複登録あり)のわ会員が、活発なボランティア活動を続けています。平成16年には、延785日にわたって延3,057名の会員が、約24,000名の方達を対象とする一般ボランティア活動と、約42,000名の観光客を対象に有馬でガイド活動を行いました。(第1表*参照)

文化部会ではこのたび、この24のグループの実態について調査を行いましたので、その内容をここに紹介します。[*文化部グループ一覧表、次号に掲載 広報部]

2. 部員構成と入会資格

第2表 部員構成

	部員構成	グループ数
資格別	わ会員のみ	14
	わ会員とKSC卒業生	4
	わ会員とKSC在學生	2
	わ会員と一般市民	1
	わ会員とKSC卒業生と在學生	2
	わ会員とKSC卒業生と一般市民	1
性別	男性のみ	1
	女性のみ	7
	男女	16
人数別	10名以下	8
	11~30名	11
	31~50名	3
	51名以上	2

第2表に示すように、部員の構成は、わの会員のみであって、男女混合で人数は30名以下というのが代表的な姿です。そして入会資格に制限を設けているグループが11で、制限なしというのが13となっています。資格制限の内容は第3表の通りですが、わがNPO法人となつてからは、KSCの関係者以外でもボランティア活動に共鳴する人は受け入れてもよいということになったので、これから部員構成も変わってゆくことと思われます。

第3表 入会資格制限の内容

資格制限内容	グループ	資格制限内容	グループ
KSCのOBのみ	3	特定技能の経験者のみ	1
わ会員のみ	3	特定クラブのメンバーのみ	1
KSCのOBと在學生の男性	1	練習場の広さのため制限している	1
わ会員とKSC在學生	1		

3. 練習・講習の状況

ボランティア活動をするためには、それぞれの分野での知識・技能を習得し、向上させる必要があります。そのための練習とか講習を行っているグループは21で、特に練習などしなくても既に習得している技能で十分であるというグループが3でした。

この21のグループについて、1回の練習のために、施設や設備機器の利用料として払っている費用を第4表に、練習や講習の頻度を第5表に、1回の練習時間を第6表に、そして指導者についての情報を第7表に示しています。

人数の少ないグループでは、会場使用料の負担が大きくKSCの教室等の時間外や休日での利用許可が強く望まれています。この場合、有償であっても構わないと思います。

第4表 施設・設備利用料

金額	グループ
無料	3
1000円以下	4
1001～2000円	7
2001～3000円	3
3001～4000円	3
4001円以上	1

第5表 練習・講習の頻度

頻度	グループ
週に1回	3
月に2～3回	11
月に1回	4
年に4回	1
年に2回	1
年に1回	1

第6表 1回の練習時間

時間	グループ
1時間	1
2	6
3	5
3.5	2
4	2
5	1
6	1
8	1
適宜	2

練習時間は1回につき2～4時間で、毎週或いは月に2～3回といったところが平均的なところでしょうか。殆どの場合、練習自体が部員の楽しみであると同時に、ボランティアやその他の活動の準備でもあります。

第7表 指導者

	指導者	指導料あり	指導料なし
部員	16	4	12
外部者	4	3	1

技能の指導は、殆どのグループが、部員の中の先輩や経験者が無償で行っているようですが、外部の指導者に有償で指導を受けているところもあります。

東灘区会

写真で綴る活動の一部
音5 東 藤井 潤子

1. こうべ環境未来館見学会
H16-10-19(火)実施
24名の参加者、東灘区会の吉田 忠史(生環7)さんが案内役で資源リサイクルセンター内部を分かり易く説明してくださいました。資源を大事にしないと...と改めて思った1日でした。

2. サンライフ魚崎のクリスマス会
H16-12-20~24
二胡と十三絃の合奏で富山節子(音文2)さんが二胡を弾かれ、珍しい楽器の演奏に眼を奪われていました。

KSC男声合唱団、3年連続出演

力強く美しいハーモニーで“子供の一年”を童謡・唱歌で綴る17曲の熱唱、あとクリスマス歌を3曲。東灘区会の小埜 直(音文6)さん指揮、廣川 幾雄(生環4)さんを始め文化部の協力によりホームの皆様にとくにも非常に喜び、楽しんで頂きました。

民謡と銭太鼓 楽遊クラブOB “銀雅” 6名のメンバー、3年連続出演です。

民謡は宇梶 輝雄(福祉8)さんが「コキリコ節」、「北海道漁節」など。

灘区会

活動の概要
国8 灘 福田 望

灘区会では従来通り偶数月の第4土曜日に六甲医療生活協同組合の集会室で区の例会をもっています。議題はわの運営委員会の報告、各委員からの活動報告などです。

活動内容は、大石高齢者介護支援センターでゲストの方々と折紙、習字、ナツメロ...という活動をしています。

またうみのほし特別老人ホーム(海星病院隣接)では、リハビリに通う人を車椅子送迎しています。昨年無事支援活動をこなして大勢の方から感謝されています。

2005年は車椅子でのバリアフリーマップづくりが課題です。

銭太鼓も会長の藤井 玲子(音文6)さん、私も3年連続で出演しています。衣装も振りも派手で「花笠音頭」「鹿児島小原節」、それにアンコールで中村 美津子の唄「河内男節」を振りました。皆さん口ずさみながらとってもいい雰囲気でした。

ことしも元気でボランティア活動ができるよう健康第一でいきたいと思っています。皆様のご協力に感謝!

兵庫区会

兵庫区会だより
新年懇親会開催

1月16日(日)恒例の新年懇親会が1期生から、今春卒業の9期生までの47名が参加して荒田福祉センターで行なわれました。開会に先だって大震災10年の節目を迎え感慨も新たに犠牲者のご冥福を祈り黙祷を捧げました。引き続き兵庫パンジーの会会長、宮城さん(音文2)から、昨年の暮れは押し迫った28日まで、新年は早々の4日からボランティア活動に参加された多数の会員に謝意の表明があり懇親会に移りました。

9期生の紹介、杉原さん(福祉3)の軽妙なマジックやピン

ゴゲームなどで会場の雰囲気は大いに盛り上がりました。締め括りは宮城さんの発声で、賑やかな「兵庫区歴史花回道音頭」と「神戸市シルバーカレッジ校歌」を全員で合唱し散会いたしました。

観梅会への誘い

開花の時期にあわせ昨年同様、須磨離宮公園植物園と網敷天満宮での観梅会を行います。多数のご参加をお待ちしております。

(1) 集合日時・場所：2月25日(金)午前10時、高速新開地駅改札口

(2) 弁当・お茶：各自でご用意ください。

(3) 問合せ先：電話361-0157高田まで



カレッジ校歌の合唱(発声 宮城さん)



1. こうべ環境未来館見学会での1場面



2. サンライフ魚崎のクリスマス会、二胡と十三絃の合奏

神戸市シルバーカレッジ 9期生 (3年生)

第2回 グループ学習合同発表会



シルバーカレッジでは、3年生になりますと学生が「テーマ」を設定し、グループを作り調査・研究を進めます。

この中から選抜されたいくつかのグループの成果について、グループ学習の合同発表会を開催いたします。

是非、学習成果をご覧くださいと思います。

卒業生、地域の方々をお誘いしてご来場下さい。



- 内容：
- ・ 生活環境、福祉文化、国際交流・協力コースの学習発表
 - ・ 総合芸術音楽文化専攻のラテンリズム合唱、和太鼓
 - ・ 総合芸術園芸・食文化の学習発表
 - ・ 総合芸術美術工芸専攻の絵画・陶芸の展示

日時： 平成17年3月7日(月) 10:00~16:00
(申し込みは不要)

会場： しあわせの村内 神戸市シルバーカレッジ ホール

主催： 神戸市シルバーカレッジ 9期生(3年生)

西区会

トライやる・ウィーク 盲学校生への介助 ボランティア

西区会々会長

園7 西 松岡 泰彦

2004年11月15日(月)～19日(金)の5日間、市立盲学校中学部2年生の3人がトライやるウィークの一環で西区樫谷町寺谷で農業を営んでいる高尾 和幸さんの協力で農作業に従事することになった。

その作業を介助するために、わ 西地区から毎日2人延10人(実質6人)がボランティアとして参加した。

トライやる での作業内容

鋸を使って竹炭用の竹の切断および鉋での竹割り、炭竈へのマッチによる火付けと竹炭作り
竹林の古竹の伐採された竹の

運び出しと焼却作業

台風による土砂崩れ跡の土留め作業と田に流入した土砂の搬出作業

田圃でレンゲ草の種まき、大根の収穫と箱詰め

ミニトマト包装用ビニール袋へのバーコードシール貼り、その他

子供達はすべてが初めての経験で特に鉋や鋸、木槌あるいはマッチの扱いなど、最初はとまどっていたが慣れるとともに結構楽しんでた。

介助する我々も当初うまくやれるか不安があったが、子供達がみんな素直で明るい子達だったので直ぐに打ち解けて、気持ちよくお手伝いできたように思っている。また障害者に対する理解も深まり大変勉強になった。

ティータイム

決死行

食5 灘 井上 善道

とうとう11月23日という日がやって来てしまいました。きょうは労災病院のステンレスのエレベータ扉を磨くと約束した日なのです。とても緊張しています。すこし大げさにいうと敵前上陸をする兵士の心境です。

「なんで？」そう思われる諸兄はステンレスにあまり関心のない方だと思います。「大変な挑戦だな」と言って下さる方が、もしおられたら、私も嬉しくて涙がちょちょぎれてしまいます。

ステンレスは実に難物です。水洗いだけでも結構綺麗にはなります。でも、汚れがないのと、見た目が綺麗とは関係がないようで、「拭きムラ」がとても目立つのです。まして手垢が付いているからと、拭きでもしたら大変！そこだけ大きなあはたができたみたいに目立ってしまいます。製鋼メーカーに始めてインターネットの世界でも情報を集め回りました。水・酢・アルコール・・・、考え得るあらゆるもので試してみました。そしてある特殊なワックスを使うことに決めました。手形のべったりと付いた扉を横目にみながら半年間、研究と予行演習は十二分に済ませたつもりです。でも、小机程度の面積を磨き上げるのと、縦何メートル横何メートルにもなる大きな扉をムラ無く磨き上げるのは全く違います。しかも、玄関やエレベータ

周りだけは他とは違った特殊な表面仕上げ(磨き)のステンレスなので予行演習ができないでいたのです。

「暗くなっても帰ってこなかったら、失敗してるんだと思っておいて」家内にはそう告げて7時に出発しました。

まず、受付の周りの5本の飾り柱で試して見ました。予想通り難物です。正面から見ると完璧に見えても、チョット角度を変えてみると拭き取った手の動きがそのまま残って見えます。エレベータの扉は到着を待つ間、多くの人がじっと見つめるので、ここの綺麗・汚いは病院の清潔度の評価に即つながりかねません。

たった一人ではありますが労災病院では、私が“わ”であり、シルバーカレッジです。やりかけて途中で放り出す訳には絶対行きません。

暗くなった街を肩を落として帰る自分の姿が脳裏を過ぎります...

「アレ？」5本の飾り柱のうちの1本だけが、上から見ても下から見ても、斜めから光を当てても、拭きムラが見えません。とうとう要領がつかめたのです。

覚悟を決めて全ての扉にワックスを塗りました。じりじりとして乾燥するのを待ちました。1時間後、一気に電動ポリシャで磨きに掛かりました。予想は的中です。面白いように綺麗になって行きました。

明るい内に家に帰り着いて、非常な充足感に浸りながら一日を終えました。



鉋での竹割り



土砂崩れ跡の土留め作業

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。災の字で暮れ掛けた歳末に惨の字が加わった昨年でしたが、ことしは何か吉兆を見たいものですね。

歳は取っても紙面は若くを心掛けています。とは言い条生来出不精で、皆様の投稿だけを頼りに仕事してます。どうぞことしもお協力、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。(サン)